

ひとりだち

きこえとことばの
支援センターだより
R8年1月号



寒い季節、中耳炎に注意！

一年で一番寒い時期を迎えています。寒さによって血液循環が悪くなる冬は、耳の感染症が増える時期です。今月号は、その一つである中耳炎についてお伝えします。

中耳炎はウイルス・細菌が耳管（鼻と中耳をつなぐ管）を通して中耳で感染・炎症を起こすものです。強い耳の痛みが特徴的な症状です。「きこえづらくなる」「熱が出る」「耳だれが出る」などの症状も見られます。

なぜ、中耳炎になるのかというと、原因は鼻水です。鼻水にはウイルス・細菌が住み着いており、鼻から中耳にウイルス・細菌が入ります。特に風邪が進んで、鼻水が黄色になると要注意です。なぜ、子供は中耳炎になりやすく、繰り返すのかというと、子供の耳管は大人の耳管に比べ、短く、太く、水平になっているため、鼻水が入りやすく炎症を起こしやすいからです。中耳炎は自然治癒しにくく、治療が遅れると鼓膜などへのダメージできこえの状態が悪くなることもあります。

中耳炎の種類には、急性中耳炎、滲出性中耳炎、慢性中耳炎などがあります。急性中耳炎が長引くと滲出性中耳炎になり、呼び掛けに対して普段より反応しにくくなったり、聞き返しが多くなったりします。また、テレビの音量を普段より大きくするという事も見られます。滲出性中耳炎は痛みや発熱がないため、注意が必要です。中耳炎かな？と思ったら、すぐに医療機関を受診しましょう。また、症状が軽くなったからといって治療を中断すると、中耳炎を繰り返す原因にもなります。「完治した」と医師から判断されるまでは治療を続ける必要があります。

では、中耳炎にならないように未然に防ぐにはどうしたらよいでしょう。それはこまめに鼻をかむことです。自分で鼻をかむことができない乳幼児は、鼻水をこまめに吸い取ったり、拭き取ったりします。自分で鼻がかめるようになったら、片方ずつ鼻を押さえてかむようにしましょう。鼻水をすすったり

せず、鼻をかむことによって、ウイルス・細菌をこまめに体外へと排出し、鼻の中をできるだけ清潔な状態に保つことが中耳炎の予防につながります。また、アレルギーによる鼻炎から中耳炎になることもあるため、ホコリなどの環境アレルゲンを除去することも有効です。普段から栄養バランスのとれた食事、質の良い睡眠を心掛け、体調を整え、風邪をひかないように努めていきましょう。



冬の補聴器・人工内耳の管理

補聴器も寒い冬の影響を受けるため、冬ならではの補聴器・人工内耳の管理が必要になります。この機会にご家庭でも補聴器・人工内耳の管理について話題にしていただけたらと思います。

結露に注意！

室内と室外の気温差により結露を生じやすいです。

熱に注意！

補聴器は熱に弱いです。

電池に注意！

冬の乾燥と低温は、電池の性能を低下させ、寿命を短くします。

外した後は、電池を取り出してドライケースなどに入れます。イヤモールドやフック、チューブの水滴は、**こより**でとることができます。



暖房の側など、高温になる場所には置かないようにしましょう。



予備の電池を持ち歩きましょう。こまめに電池の残量をチェックすることも大切です。電池が冷えている場合は手でしばらく温めてから使しましょう。

静電気によって、まれに人工内耳のマップが壊れることもあります。静電気にも注意しましょう。



* ナショナル補聴器センター・・・2月4日・18日(毎月第1・3水曜日)

* 理研産業・・・2月25日(毎月第2水曜日)※今月のみ第4水曜日となります。

場所: 本館1階 補聴相談室 時間: 13時30分～相談が終わり次第終了

※イヤモールド作成、補聴器の不具合等の相談は、業者来校日の前に、担任を通じて各部の補聴相談係への連絡後、申し込み用紙の提出をお願いします。